奨励賞

地域経済を視点に地域と学ぶ金融教育の在り方の提案

–タウンミーティング・地域経済活力創造の実践を通して–

新潟県・上越教育大学附属中学校

柳澤　一輝

1. はじめに

飽食の時代、欲しいものがすぐに手に入る時代、と叫ばれて久しい。これは、日本が豊かであることの証しととらえる人も多くいるであろう。中学生の生活に目を向けてみても、携帯電話、テレビ、ビデオ(DVD)、パソコン、ゲーム機器やソフトなど、様々な高価なモノを所有している生徒が多くいる。さらに、近年では、机上に電子辞書を携行しながら授業に臨み、活用している生徒の姿が目立つようになったことも豊かさの象徴であろう。反面、シャープペンシル、消しゴム、筆箱、下敷きといった学用品は、連日、落とし物として届けられ、受け取りにくる生徒は皆無に近い実態がある。その背景には、安価なものはなくなったら買えばいい、という安直な考えがあるのではないだろうか。これも豊かさの象徴であるとは、到底思うことはできない。中学生の「消費に対する考え方」「モノの扱い方」を改めて見直す必要があると考えている。モノ自体に生命はないが、全てのモノには、創った人・売る人の思いや魂が込められ、そして、お金を仲立ちとして我々の手元に届いている。このことを理解しながら、合理的な意思決定や公正な判断力をもち、消費活動を行うことが賢い消費者としての原点である。その中で、家庭・学校・地域が、更に連携を図り、賢い消費者となるために、金融教育を推進していくことは時代の要請であるととらえている。

中学生は、お金を「使う(消費する)」という視点でとらえがちである。お金は本来、「手に入れる」「貯める」「増やす」「借りる」「払う」「運用する」などといった様々な用途があり、その根幹には、「お金は大切なものだ」「お金と上手に付き合うべきだ」という大前提があるべきである。そのためにも、お金を稼ぐことの意義や価値を実感したり、生産者の苦労や思いを共感的に理解したりする経験が必要である。日常の生活を通して、これらの経験や体験を積むことで、お金やモノに対する生徒の意識や向き合い方は変容し、お金を大切に扱うようになることを期待している。

本実践では、中学校 1 年生を対象に、発達段階を考慮しながら、調査活動や体験的な活動などを実施し、地域経済を担う一員や賢い消費者としての在り方を追究したり、地域経済の活性化の意義を実感したりする単元を構成した。そして、生徒の姿や学びの様子から、金融教育における本実践の有効性を検証していくこととする。

2. 本実践における「金融教育」のとらえ

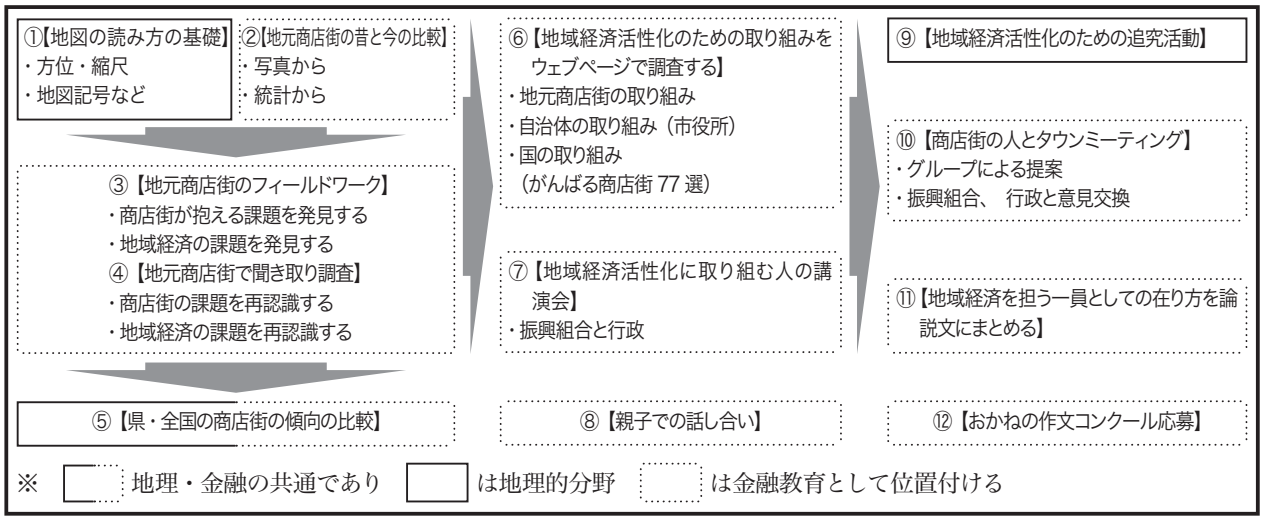
金融広報中央委員会「金融教育ガイドブック」において、「金融教育[*1]」は、金銭教育的な視点、経済教育的な視点、経済学教育的な視点、生活設計的な視点、投資教育的な視点、狭義の消費者教育的な視点、キャリア教育的な視点などを含むもの、さらには法教育、環境教育とも関連するものとし、広くとらえている。そして、生徒が社会人として健全に成長することを念頭において行われるべきだ、と提案している。つまり、21 世紀を生きる生徒にとって必要となる資質を養うための「金融教育」であるといえる。そして、「金融教育」の推進は時代の要請であると考える。

これまでも、キャリア教育や金銭教育などは、学校現場において主に社会科や家庭科などの教科を中心に実践されてきた。しかし、それぞれの実践を、教師自身が「金融教育」ととらえずに行っていたのではないだろうか。「金融教育」という概念自体が広く認識されていない、一人の教師のみの実践にとどまり共通理解が図られていない、という実態があるといえる。今後、教科において一人の教師が取り組む実践から、教師全体が「金融教育」に取り組む形へと発展することを望む。そのためにも、「金融教育」の概念を体系化し、教えるべきことや学ばせたいこと、それにかかわる技能などを教師が明確にもって授業に臨むこと、系統だった計画を立て実践すること、「総合的な学習の時間」を活用すること、を提案したい。

*1:「金融教育ガイドブック―学校における実践事例集―」P.8 ～ 9 参照　金融広報中央委員会

本実践は、総合的な学習の時間と社会科を一体とした「総合社会科[*2]」において、下記のような単元を構成し、当校1年生(119名)に実施した。なお、地理的分野「身近な地域」や「都道府県の調査」(新潟県)と関連させることで、全30時間の単元が可能となった。また、本実践においては、金融教育の中でも、特に経済学教育的な視点、消費者教育的な視点、キャリア教育的な視点を学びの中核に据え、実践に当たった。

【表1】学びの流れ



本実践の学びを通して、生徒が身に付ける知識、援用する概念、活用するスキルを下記の【表2】のように分類した。それぞれの学びにおいて、獲得する知識などを明確に位置付けることで、教師による生徒のみとりを確実にするとともに、授業における目標、ねらいを明確にもち、実践に当たることができた。

【表2】内容知・方法知の分類

内容知		方法知・スキル
<経済・経済学の概念> o希少性 o市場経済と地域経済 oコストダウン oマーケティング oトレードオフ o失業、倒産、景気、所得 o利潤、利益、在庫 o薄利多売 o地域マネー、地域通貨 oインフレ、デフレ o消費、消費者	<社会科における知識・理解> o地図の特性(方位、縮尺、等高線、地形図、地図記号など) o地域の歴史・文化・風土 o上越市・新潟県の概要 o地方公共団体の仕組み o行政の仕事 o流通、商業、需要と供給、小売り、生産の仕組み o少子高齢化、バリアフリー o地方交付税交付金 oまちづくり、条例	o地図の比較の仕方 o発表の仕方 o写真の見方 o統計資料・グラフの活用の仕方 oメモの取り方 oインターネット、ウェブページ活用の仕方 oレポートのまとめ方 oフィールドワークの仕方 o聞き取り調査の仕方 o意見交換、提案の仕方 o自己評価の仕方

3. 実践の概要(生徒の学びの様子から)

本実践は、当校1年生を対象に行ったものである。事前の実態調査から、小学校での経済や金融にかかわる学習としては、主に地域で働く人を調査したり、インタビューしたりしたものが大半であった。総合的な学習の時間においても、地域の特色や産業・歴史について調べるものが中心であった。キャリア教育との関連を図るものが多く、その学び自体を金融教育の一環としてとらえてはいなかった。したがって本実践が、初めて経済という視点で学ぶことになる。そこで、発達段階や生徒の興味・関心を考慮し、身近な生活に即した地域の商店街

*2:2004年度より、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、総合的な学習の時間と教科を一体とした再編教科に取り組んでいる。

から地域経済や消費について考えさせることとした。

なお、ここでは、単元において中核を成した学びを中心に記述する。下記の内容以外にも、経済や経済学の概念を援用しながら学びを進めたが、本稿では割愛する。

（1）地域を歩くことで、地域経済の課題を探る

これまで、単元や授業を構想するとき、学習指導要領を意識し、単元の目標やねらいを設定した。そして、目標やねらいを達成するために、具体的な手だてを決定し、評価規準を設定してきた。それに準じて、資料やワークシート、体験的な活動の準備を行うという手順で進めてきた。本実践でも、同様の方法を講じて、実践へと移った。初めての金融教育となるため、特にあらゆる学びで、生徒の発想や感じ方を重要視した。時には，こちらの予想を超えた生徒の発想に出会うこともあった。

まず、これからの実践に必要となるインタビューの仕方、メモのまとめ方、地図の見方などの方法知を身に付けた後、地元の商店街[*3]でフィールドワークを行った。平日の昼過ぎに商店街を歩くことは生徒にとってほとんどない。あらかじめ、フィールドワークの視点を、「地元商店街の課題と工夫を探る」と説明した後、フィールドワークを実施した。生徒は、気付いたことや発見したことを自由にまとめた（添付資料1）。主な生徒の発見は、以下のようなものであった。

【表3】工夫・課題例

発見した工夫	発見した課題
・防犯灯がある ・銀行や信用金庫が多い ・点字ブロックがある ・有料駐車場が多い ・特産物、オリジナル製品が多い ・店が入りやすいように奥まで見える ・飲食店が多い ・集える場所がある ・音楽が商店街全体に流れている ・ポイントカード加盟店が表示してある　など	・閉店、貸店舗、売却、シャッターを下ろしている店が多い ・路上駐車が多い ・人通りが少ない ・若者向けの店が少ない ・駐車場が利用されていない ・公衆トイレや公衆電話がない ・閉店時間が早い ・高齢者が歩きづらい ・どこにどんな店があるか分からない　など

これらの工夫や課題を整理・分類し、学級で発表会を行った。これにより、自分たちが気付かなかった視点を学級の仲間と共有した。さらに意見交換を行い、地元商店街が抱える課題を克服したり、改善したりするための工夫を話し合った。生徒の視点で浮き彫りとなった課題について、地元商店街でも何らかの対応や工夫を店独自に、または商店街全体で行っていることに気付いた。しかし、なぜ人通りが少ないのか、という新たな疑問が生まれた。そこで、自分たちが気付かない別の課題があるのではないか、という新たな視点に立ち、再度、聞き取り調査を地元商店街で行い、ワークシートにまとめた（添付資料2）。この調査から、多くの人は、郊外にある大型ショッピングセンターで買い物をしている実態をつかんだ。そして、「消費」という視点に立ったとき、人々は「利便性」や「立地条件」に大きく左右され、そこに足を運ぶことに気付いていった。また、大型ショッピングセンターの商品のほとんどは、全国どこでも手に入るものが多く、オリジナルの商品や地元ならではの商品を置く地元商店街との特色の違いを生徒は発見した。消費者という視点から、「利便性」「立地条件」と「オリジナリティ」という対立したキーワードを自分たちで発見したことは大きな成果であった。

*3：新潟県上越市にある高田本町商店街（3丁目～5丁目）を指す。雁木が連なる商店街で、かつては上越市の中心市街地であった。なお、本稿では、「地元商店街」と表記する。

（2）地域経済の視点から、全国の商店街と比較する

地域で発見した経済における課題を、地域の課題ととらえるか、日本経済の課題ととらえるか見極めるために、ウェブページを活用した。地元商店街を全国の商店街と比較するというテーマを生徒に示し、ワークシート（添付資料3）を用意し、調べ学習を行った。

まず、地元商店街のウェブページから、活性化のための取り組みをまとめ、その後、全国の商店街のウェブページにアクセスした。この調査から、何人かの生徒は、経済産業省が発表した「がんばる商店街 77 選」の情報を収集し、比較を行った。このページを全体に紹介し、「地元商店街に取り入れたい取り組み」について話し合った。そして、生徒の支持の多かった９つの商店街の活動を元に、さらにランキングを行った。この活動から、「商業」を具体的に理解し、地域経済・商業活動の活性化のためには、まちづくりが重要な視点であることに気付いていった。

また、閣議決定された「地域再生基本方針[*4]」や市役所の産業振興課による商店街のイベントなどの情報を収集し、地域経済に行政も大きく関わっていること、地元商店街が抱える課題は日本の多くの商店街も同様の課題であることを具体的に理解した。

以下は、生徒の振り返りである。

○「がんばる商店街 77 選」に選ばれている商店街と地元商店街の取り組みに大きな差はないと思う。地元商店街も様々な工夫や努力をしているんだなぁ、と思った。どんな工夫でも、お客さんに喜んでもらおうとして行っているのが分かった。（A男）

○ 商品を売るのに大事なことは、いい商品を置くことだけではいけないと思った。店の雰囲気やサービスなども大切だと思った。雰囲気やサービスにはお金がかからないので、ここを工夫することが売り上げを伸ばす秘訣だと思う。（B男）

○ インターネットで調べてみて、内閣や市役所も地域の経済の活性化のために働いていることが分かった。国や市役所が地域経済を考えているけど、私自身、ほとんど地元商店街のことを考えたり、利用したりすることがなく、あらためて考えさせられた。（C子）

○ 売り上げを伸ばすためには、立地条件や便利さの影響が大きいと思った。でも、他の所に大きなショッピングセンターができたら、今のショッピングセンターも人が減ってしまうのではないだろうか。ものを買うときは、目的に合った買い物をすれば、どこも売り上げが確保できるし、閉店しなくて済むと思った。（D男）

（3）地域に学ぶ―地域経済活性化への取り組み―

ここまでは、あくまで消費者側の視点から学びを深めてきた。ここに、異なる視点や違った視点からの学びを組み込むことで、生徒の思考は更に深まると考えた。そこで、生産者・小売業者の視点、保護者の視点を構想した。

まず、シャッターを下ろす店舗が増加している地元商店街で商売を営む方からの講演を聞いた。本物に出会い、そこから学ぶことは生徒の学びへの意欲を高めるとともに、より具体的な生きた話を聞くことができる。数回に渡る事前の打ち合わせを行い、これからの地域経済を担う生徒に、地元商店街の抱える課題や苦労など、本音の部分を聞かせたいという点を依頼した。この講演では、地元商店街の 20 年後、30 年後を見越していくことの重要性を聞いた。多くの仲間が、この商店街を去っていったこと、貸店舗の開店・閉店のサイクルが早くなっていっていること、後継者がいないこと、商業の基本は人が集うまちづくりであること、など様々な話を聞いた。さらに、自分の店の売り上げ以上に、商店街全体のことを考えている姿に触れ、生徒も切実感を高めていた。そして、これからの金融、経済を考えていくときに、少子化・高齢化がキーワードになってくることを生徒は実感していった。

次に、地元商店街活性化・地域経済活性化のためにどうすべきか、をテーマに家庭で親子の話し合いの活動

*4：平成 18 年 2 月 17 日閣議決定。地域再生・地域の活力増進のための基本的な方針を定めたもの。

を取り入れた。地元に生まれ、地元で育った保護者からも、以前は毎日のように利用していた商店街も、社会の変化や車社会への移行に伴い、消費活動に利便性を求めている、との感想をもらった。これにより、地元商店街の長所・短所、大型ショッピングセンターの長所・短所が生徒の中で明確になった。家庭での話し合い後、その様子を学級の仲間と話し合った（添付資料４）。その後、地域経済活性化に向けて、各自で課題を設定し追究活動を行った。その成果を基に地元商店街や地域の方とタウンミーティングとして、提案を行うこととした。

（４）タウンミーティングを開催する―地域と語る・地域に提案―

自分たちの学びの成果や提案を当事者に提案することで、地域経済を担う一員としての自覚や意欲を高めることをねらいとして、地元商店街振興組合の代表の方や市役所産業振興課職員とタウンミーティングを行った。生徒は、これまでの学びから、地域経済の発展はまちづくり、という理念に基づいた提案を行った。地域の歴史や風土を生かしたイベントや地域通貨・地域マネーの導入、高齢者が安全に買い物ができる取り組み、若者が集う商店街、空き店舗を利用した商店街、各店舗に 100 円均一コーナーを設置など、様々な提案（添付資料５）を地域に投げ掛けた。ここでの成果は、地元商店街振興組合の方や市役所産業振興課の方から、「是非、取り入れてみたい」や「参考になった」というコメントをもらったことである。これにより、自分たちの提案も地域や社会が受け入れてくれるという民主主義の理念を実感できたことと、何よりも金融や経済について、更に関心を深めたことである。

また、「これまで、便利さや手軽さばかりを条件に買い物をしてきたけど、地元商店街の人たちの思いや願いを知ったことで、自分の消費活動を見直すきっかけになった。その背景にいる人の思いを考えながら、ものを大切にしたいと思った。買う方も売る方も豊かになるために、しっかり考えていこうと思う」などといった生徒の振り返りが見られた。

（５）学びのまとめを論説文にまとめる

単元の終末は、学びを振り返りながら、自分の考えやこれからの自分の在り方を論説文にまとめることとしている。本実践では、「地元商店街の活性化は可能か」または、「地域経済の活性化のためにできることは何か」のいずれかのテーマを選択し、自分の考えをまとめさせた。この活動は、生徒が学びを通してどんなことを身に付けたか、テーマについて、自分の在り方やこれからの生き方をどのように合理的に意思決定しているかをみとるためのものである。多くの生徒がこの論説文において、「これまでの自分の消費の在り方を見直す契機となった」や「地元商店街の人の販売への努力や苦労を学び、商品に対する見方や扱い方を改めなくてはならない」などの記述が見られた。生徒の記述から、これまで何気なく行っていた消費活動が、自分なりの考えや視点をもって判断したり、意思決定したりしようとする意識の芽生えを見て取ることができた。

以下は、生徒の論説文の一部である。

○ …（前略）地元商店街には地元商店街のよさがあるし、大型ショッピングセンターには大型ショッピングセンターのよさがあることが分かった。特に、地元商店街には今まで気付かなかった工夫や努力があることを知って、参考になった。塾に行くときに商店街をよく通るけど、いろんな工夫があることを知って、歩くのが楽しくなった。商店街では、高齢者の人が買い物をしていた。高齢者の人は、車で買い物に行くのは無理だから、商店街はもっと高齢者向けの安い商品を置いたり、重い荷物用の宅配サービスをすると、もっとにぎわうと思った。（E男）

○ 私はやっぱり、郊外のショッピングセンターで買い物をすると思います。理由は、やっぱり便利だし、一度にいろいろなものが買えるからです。それに、ゆっくり買い物もできるし、持ち運びも便利だからです。でも、地元商店街の人の温かさやいろいろな工夫を知って、もっと商品を大事に扱うようにしたいと思います。（F子）

4. 実践における学習効果の検討

本実践の特色として、①身近で生徒が関心をもちやすい、地元商店街に視点を当てたこと、②地理的分野や総合的な学習の時間との関連を図ることで、30時間の単元を構成したこと、③地域に出掛け、フィールドワークや聞き取り調査など、自ら課題をつかみ、調べる学びを展開したこと、④家庭・地域と地域経済を視点に意見交換し合う場を設定したこと、⑤評価規準を設定し、確実にみとっていったこと、が挙げられる。

中学生にとって、金融や経済の学びは、生活経験が不十分で、興味・関心や実感がもてなかったり、専門用語が難しく、苦手意識をもったりする傾向があった。そこで、金融や経済を身近に捉えられるよう、上記の①～⑤を位置付けた。ここでは、特に②単元の構成を中心に述べる。地理的分野や総合的な学習の時間と関連を図り、校外での学びや意見交換などを組み込んだことで、生徒の学ぶ意欲が継続したと言える。これは、生徒の様子やワークシートの記入状況、意見交換やフィールドワークの様子からも判断できた。また、単元終了後のアンケートにおいて、フィールドワークや講演、意見交換などが学びを深めた、と回答する生徒が多くいた。生徒の振り返りにも、「地域経済について自分なりの考えをもつことができた」や「今後提案したことを具体化するときどれくらいお金がかかるか調べてみたい」などの記述が見られ、関心の高まりが見られた。さらに、今後の消費の在り方や地域経済を担う一員としての意識は、単元開始前より、大きくその数値が増加している。その根拠として関係する地域との対話が大きく影響していた。これらのことから、生徒の実態や生活に即して単元を構成することは有効であると判断した。

5. 今後の金融教育への展望

金融教育を進めるに当たり、教師からは、専門用語が難しい、急激な社会や経済の変化に対応するのが難しい、といった声を聞く。また、昨年度が金融教育元年と呼ばれるほど、金融教育は新しいものであって、教師にとってもイメージしにくいものとなっている。そこで、身近な題材を扱ったり、体験や見学、専門家による支援などの方法を講じることで、これらの課題をクリアできると考える。また、金融や経済の学びを、生徒の内面に向き合うものとして扱うのか、基本的な概念を学ぶものとして扱うのかを、生徒の発達段階に応じて判断することで、多様な学びが展開できると考える。例えば、中学校1年生の段階で、市場経済や消費、金融政策などを具体的に理解させることは難しい。そこで、教科や総合的な学習の時間を活用し、お金の価値や意義、自分とのかかわりを具体的に考えたり、体験したりすることで、意識を高めていくことが可能となる。そして、学びにつながりや系統性をもたせていくことで金融教育の充実を図っていきたいと考える。

6. おわりに

先に述べたように、中学生の実態として、モノやお金を大事にしない、金融や経済に関心を示さない生徒が多い。消費不況と言われる中で、生徒の消費活動は活発なようである。社会において、多くの企業は、どのように利益を伸ばすか、どのようにコストダウンを図るか、に試行錯誤を繰り返しているのである。生徒たちも、いずれその社会に出て働き、所得を得て生活することになる。そのときに、なくなったら買えばいいといった感覚をもったまま社会に送り出すことは、家庭・学校・地域の責任であるととらえたい。「お金を愛するだけではお金持ちになれない。お金に愛されなければならない」というユダヤ人の諺がある。金融や経済への関心をもち、お金を大切に扱う人間となってはじめてお金に愛されるのではないだろうか。そして、様々な経済活動に対して、自己責任の下、合理的な意思決定をし、公正に判断できる人間を育てるために、今後も金融教育の推進に力を入れていきたい。

本実践では、将来のことを考えて、現在できることや考えなくてはならないことを題材として扱った。様々な課題や反省点もあったが、生徒が真剣に学びに取り組んでくれたこと、家庭や地域も参加し、共通理解が図られたことが成果であった。地域への提案では、多くの地域の方や保護者も参観した。つまり、家庭や地域も、金融教育に意義や価値を見いだしたり、理解を深めたりしたのではないかと考える。そして、生徒の今後の生活や消費活動に際し、本実践の学びが生かされることを期待する。

添付資料

【資料1】

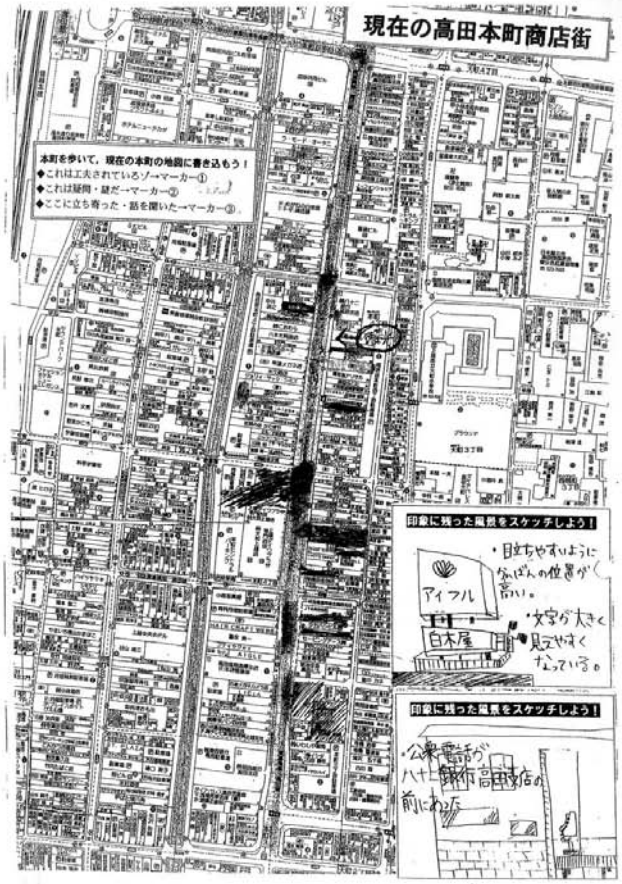
ワークシート　No　Name

「高田本町商店街」フィールドワークにでかけよう！

<フィールドワーク>
◆総社ル・スタディ・スキルトレーニング No.16～17 で確認しよう！
◆フィールドワーク実施日　6月9日(金)　：　～　：　場所 高田本町商店街
◆持ち物
・ワークシート　・腕時計　・筆記用具　・地図（現在・江戸）　・クリップボード　・マーカーペン（3色）
◆メンバー
◆学習目標　高田本町商店街の店のお客さんが来てくれるために、工夫を知る。
◆明らかにしてきたいこと
高田本町商店街の店の工夫　閉店している店はなぜあるのか

1.「高田本町商店街」を歩いてみて。

<思ったこと（疑問点など）>	<発見！本町商店街まちづくりの工夫>
街を歩いてみて、公衆電話が1つしかないことが疑問だった。 ・おかしやと駐車場と食べもの屋さんが少し多いのが疑問。 ・なぜおもちゃ屋は「たまや」の1つだけなのか。	高田本町商店街、上越にちなんだイベントなどが、人をよせつけるものをしている。 1つ1つのお店が、自分たちの店を目立たせようとして、中がすけてみえやすくなっていたり、焼やきんぱんを(大きい)たって目につくところにおいている。
<発見！本町商店街まちづくりの課題>	<振り返り・(感想や考えたこと)>
・公衆電話が少ない理由（知りたい時に分からなかったため） ・おもちゃ屋さんが1つしかない理由。 ・閉店しているお店はいくつぐらいあるか。 ・おかし屋以外のところの工夫。	駐車場が多いのは人がくるようにお店を目立たせて、入りたくなるような、中をみせるなどの工夫をしているからそのお店たちに人がたくさん来るようになって、そういうお店がどんどん増えていき、車で来る人が多く、車を止める場所がたりなくなり、次々と増していったからだと思う。そうすると、これからも本町は発展していくだろう。



【資料2】

No. 16　6月8日(木)　1年　組　番　氏名

インタビューの仕方スキルトレーニング

◆校外でのインタビュー・聞き取りは礼儀やマナー，態度が非常に重要です。

【インタビューするにあたって】
① 礼儀正しく，マナーや身だしなみをきちんとしてインタビューする。
② 学校名と名前をしっかりと伝える。
③ インタビューの目的や何について聞くのか明確に伝える。
④ 質問の内容はあらかじめ決めておき，簡潔に伝える。
⑤ 最後にしっかりお礼を言う。また，インタビューを断られても礼儀正しくお礼を言う。
⑥ メモはナンバリングしながら，簡潔にキーワードでまとめる。

テーマ・課題
高田本町商店街の工夫やならでは の物を知ろう。

<質問①>
この店の商品の、上越ならではのものって何ですか？（あります？）

大杉屋	三野屋	かのう
売っていない	・高田城のおかし「桜城浪漫」（高田の声あいを大切にした） ・自酒ゼリー	季節にあったものをつくっていて、春は高田にちなんで桜の花びらをうかべた「桜ようかん」と言うカステラをつくっている

<質問②>
このお店で工夫していることはなんですか？

大杉屋	三野屋	かのう
・本物を使ってやっぱりおかしが多い。これは江戸時代から現在までつづいている。・新しいものを取りいれ、まちの人の好みを知ってお客さんに「おいしい」と言ってもらえるように、もっとよりよいものをつくっていく。・お客さんが「おいしい」と言ってもらえるように、もっとよりよいものをつくっていく。	・駅から遠くから来てくださったお客さんにもおみやげとしてもっていってもらえるように商品をつくっている。	・季節にあったおかしを考えてつくっている。

<質問③>
商品はどこで作られているんですか？

大杉屋	三野屋	かのう
・あんこもの・モナカなど以外は普通はここ(店)でつくられている。	・ここのお店でつくられている。	・本店に工場があり、そこでつくったものが支店におくられる

<マつわぶ、2メカード、駐車付、そこカス>

-20-

総合社会科　1年

タウンミーティング「本町商店街活力創造」
－地域で「発見」，地域と「対話」，地域に「提案」－

聞き取り調査メモ用紙　No.　Name

★その他，自分が必要と感じたり，聞いてみたいと思ったりして，実際にまちの人にインタビューしたことをメモしよう！

1、Cando　1日　400人～500人
2、82銀行
　25台とめられるのに、15台。　印象に残った風景
3、本町商店街には
　個性あふれる町が必要
4、買間②のためにしている工夫。
　「ちょっと寄っていますよ」といって見ておくサービスがある
5、駐車場をある程度無料化したほうがいい！
6、「店がいっぱいある店と、安くてすいているほうのどちらかにしたほうがいい！
7、みんなこうがいにくるようにしてほうから、町をおさえることが必要
8、DAIWA
　本町の真ん中にあるから、がんばっている
　がんばると……
　IAIWAに来た人たちが本町商店街で買い物をする
　そうすると
　活性化になる
　みんなが口をそろえて「駐車場の無料化」を話した

すばらしいの全国のあいしょうの写真は完璧生ハの格がうかがえた

つぼ中先輩と美術的なもの。

【資料3】
ワークシートNo.1　　5月30日(火)　No　Name

ウェブページから「本町商店街」を調べよう！

※総社ル・スタディ・スキルトレーニング No.8 ～ 9 を参考にしよう。

【ウェブページを活用して調査するときは】
①調べる課題・テーマを確認する　②調べる課題について、どんな知識をもっているか明確にする　③検索キーワードを3つ以上選択する
④必要な情報を具体的にナンバリングする　⑤情報は数値やデータ等、具体的に書く　⑥分かったこと・考えたことをまとめる　⑦URLは記録する

＜追究課題＞
－「高田本町商店街」活性化－ 商店街にかかわる人たちはどんな取組をしているのだろう？

◆わたしがもっている「本町」に対する知識（知っていること）
1 町を バリアフリー にしている
2 市役所 などもスルている
3 きれいで安全な 点てんれてい
4 イベント行っている

◆検索したキーワード【語句】
新潟県上越市役所
景観まちづくり推進室
◆URL http://www.city.joetsu.niigata.jp/
http://www.

＜獲得した知識・情報・データ＞
景観まちづくり推進室
1 メールで本町の Ⓟ が分かるシステム
2 町屋をのこし、観光にきてもらう

1 歴史的建造物を活かした体験型観光展開の必要性
2 二つの取組み方向
① 都市の生活空間としての魅力向上
② 経済効果の創出
3 事業内容
① 町民活動の支援とコーディネイト
② まちづくりネットワークの構築
④ 市所有の歴史的建造物を拠点とした活動
③ 新ビジネス創出のための人材養成と起業支援
⑦ 歴史資源に関する調査・研究事業
② 意識啓発・情報発信事業
③ 基本指針・行動計画の策定

(1) 歴史的建造物を活かしたまちづくりのための町民活動の支援
(2) 歴史資源を活用した地域活性化事業
(3) 調査研究・情報受発信

＜分かったこと・考えたこと＞
景観まちづくり推進室というところがおもに本町活性化事業を行っている。歴史的資源を活用することが計画の中にあり、新しい物ばかりがいいというわけではないと思った。

ワークシートNo.2　　月　日(　)　No　Name

ウェブページから「本町商店街」を調べよう！

※総社ル・スタディ・スキルトレーニング No.8 ～ 9 を参考にしよう。

【ウェブページを活用して調査するときは】
①調べる課題・テーマを確認する　②調べる課題について、どんな知識をもっているか明確にする　③検索キーワードを3つ以上選択する
④必要な情報を具体的にナンバリングする　⑤情報は数値やデータ等、具体的に書く　⑥分かったこと・考えたことをまとめる　⑦URLは記録する

＜追究課題＞
－「高田本町商店街」活性化－ 商店街にかかわる人たちはどんな取組をしているのだろう？

◆わたしがもっている「本町」に対する知識（知っていること）

◆検索したキーワード【語句】
◆URL http://www.
http://www.

＜獲得した知識・情報・データ＞
○ 休めるような広場をもうける、健康測定サービス
○ イベントをふやす、セールを行う（福引きだとか）
○ 若物向け（ファッション系など）の店をふやす
○ 商業と観光がより退ざった商店街
○ 防犯カメラの設置
○ 小さなお物産イベント、チェーン店
○ 高い者のなやみごとを聞くサロン（「町のよろずや」など）
○ ポイントをためると、商品と交かんできる。（「ちりの会」など）
○ 屋台の出店（「ミニまつりえんにち」など）
○ かんきょうキャンペーン（レジ袋は少ないと1おくれ など）
○ ちょうし、場のタケ

＜分かったこと・考えたこと＞

【資料4】
ワークシート　　6月7日(火)　総合社会科
＝単元名＝

タウンミーティング「本町商店街活力創造」
－家庭で「本町商店街」について話し合おう－

No　Name

保護者の皆様へ
日ごろ、当校の教育に深いご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
当校は文部科学省研究開発学校の指定を受け、総合と社会科が一体となった総合社会科のように、教科を再編する研究に取り組んでいます。また、2006年度～2007年度にかけて、全広委より「金融教育研究校」の指定も受け、経済の学習にも力を入れています。
現在、総合社会科1年生の学びは、地域に視点を当てた単元「タウンミーティング・本町商店街活力創造－地域で発見、地域と対話、地域に提案－」の学びを進めています。ここでは、地域経済の在り方や地域に生きる一員としての生き方を1年生の視点で考えていくことに主眼をおいています。そこで、高田本町商店街を題材に様々な体験活動や意見交換、フィールドワーク、聞き取り調査等を取り入れる学びを計画しました。つきましては、地域経済やまちづくりについて生徒の思考を広げ深めるために保護者の皆様からもご協力いただければと考えます。具体的には、これまでの生徒の学びについてお子さんから説明を受け、テーマに沿ってお子さんとともに話し合ってください。時間柄お忙しいとは思いますが、ご協力よろしくお願い致します。
1年生総合社会科担当　柳澤一輝

生徒のみなさんへ
以下の要領で家族で話し合ってください。
①これまで学習してきたことを説明する。（本町フィールドワーク、ウェブページの調査結果から本町の特色や課題など）
②本町商店街（または遠方の生徒は身近な商店街）について、親子で話し合う。
③話し合いの感想を保護者の方から記入していただく。
④振返りを行う。（自己評価）
※ワークシートは保護者の方が記入する場所以外は、生徒のみなさんが記入してください。

～高田から遠方の方（糸魚川、柏崎）は、住んでいるところの近くの商店街について答えてください～

課題1　これまで、どのような学習を行ってきたか家族の方に説明しよう。

課題2　「高田本町商店街」を家族の方は、どのようなときにどんな商店を利用していますか？

①洋品店で買いもの（制服をおいに）② おっかいものの ケーキを買う時（人が喜ぶもの・おみやげ）
③ならいごと ④楽器店に行たり
⑤髪を切りに美容院に行く

課題3　「高田本町商店街」の長所と短所を話し合って記入しよう。（ナンバリングで）

＜長所＞
・ゆめカードがつかえる㊁駐車せんがもうえる（私）
・前から続いている店がタくい。（母）・雨がふっても大丈夫（母）
・ほしいものがなかったりしても、だいたいは売っているお店がある。（私）
・まちがきれい（母）ふんぼんがタくて大きくて分かりやすい（私）

＜短所＞
・夜早い時間にお店がしまる・活気がない・トイレがない・公衆電話がない・人が少ない・お年ばかりが来ている・路駐タくない駐車場が昔ばしの㊁作りだから引っつかせまい（母・私）

課題4　「高田本町商店街」はどうすれば活性化するか、保護者と話し合おう。

みんなが行きたいと言うお店を増やしたり、夜おそくまでやってくれるお店（7:00とかじゃなくて9:00ぐらいまでは空けて…）を増やした方がいいと思う。「けんけんお店の商品が高値で駐車場をつかってまでいこう…」と思わないから郊外の大型店のように安くて行きやすい商店街にすればいいと思う。歩行者天国にして車が入らないように土日とかして、ベンチをたくさんおいてベビーcarや車いすがとおりやすく、緑あふれる明るい街にすれば良くなると思う。

保護者記入　家族で話し合った内容や取組についての感想をお願いします（活性化になるか）

今回、高田本町商店街について話し合ってみて、たくさんの良い点とたくさんの改善すべき点が良く分かりました。人がいない事等や、若い人がおきらいな事等、活性化における和達は、に話をしてみて、やはり車の問題や幼児等の小さなる供が楽しく買い物をするには「何かあふれる商店」や「寄りやすさ」「行きやすさ」等が考えられました。
土・日に歩行者天国にしたり、ベンチを多くして飲み物や、食べ物も気軽に食べられる場所があればいいのではないかと思いました。　ご芳名

ご協力ありがとうございました。

課題5　振り返りをしよう。（自己評価：4大変よい　3よい　2わるい　1大変わるい）

①家族での話し合いに意欲的に取り組むことができた	(4) 3 2 1
②家族の方に学びの内容や自分の考えを明確に表現することができた	(4) 3 2 1
③本町商店街の長所や短所を家族と一緒に具体的に考えることができた	(4) 3 2 1
④高田本町商店街活性化のための考えを導き出すことができた	(4) 3 2 1

【資料5】

タウンミーティング　－地域と「対話」，地域に「提案」しよう－

メンバー

—

⇩

テーマ・カテゴリー

お年寄りに優しい街づくり

⇩

提　案

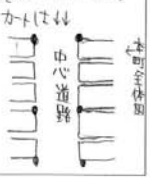
1、マンションを利用した、快適な所を。
2、お店の一部に700円コーナーをつくる。

⇩

具体案

ナンバリング・ラベリングで

1、マンションを利用した快適な所を
※宅配サービス※
・お買い物をしたら、事前に有る宅配カードをお店の人にわたす。
・多くのお店が閉店する7時に、"おとどけ屋"(仮)の人がお店をまわり、次の日にマンションの前あたりに設置した、BOXに入れる。
※お金は1回100程度　※BOXは、"おとどけ屋"の人しか持っていない カギなどで防犯もOK。
※重い荷物もカートが助ける※
・6ヶ所に設置したカートコーナーに有るカートに、ゆめカード、または100円(借りてください)を入れ、本町商店街は、好きに使える。返す時にまたカードを入れる。
お金なら、ボタンを押す。
・カートのもどす場所は自由。



2、お店の一部を百円コーナーにする
Cando(仮)は、たくさんのお年寄りがいました。
・お店の一部に百円コーナーを作る。
↳百円コーナーで買ったものは、ゆめカードイメージ分品

-1-

タウンミーティング　－地域と「対話」，地域に「提案」しよう－

メンバー

—

⇩

テーマ・カテゴリー

地域通貨と夢カードを生かしたまちづくり

⇩

提　案

リサイクルを利用した地域通貨を作る。

⇩

具体案

ナンバリング・ラベリングで

※夢通貨機械

入会金300円をとり，新しい夢カード，夢通貨を作ります。※機械にペットボトルや缶を入れると，※夢通貨を出すか夢カードにポイントをためるか選べます。また月に1回，本町，大町，仲町寺町，高田公園を中心にゴミ拾いイベントを開くようにします。冬には雪かきに参加するとポイントがたまるというイベントを開きます。

夢カードの改良
1.夢カードにスラッシュをつける
2.満点になるまでもポイントを使えるようにする
※1 機械の設置場所は今の貸店舗にする
※2 夢通貨…本町のまち或通貨の名前(仮)

-1-